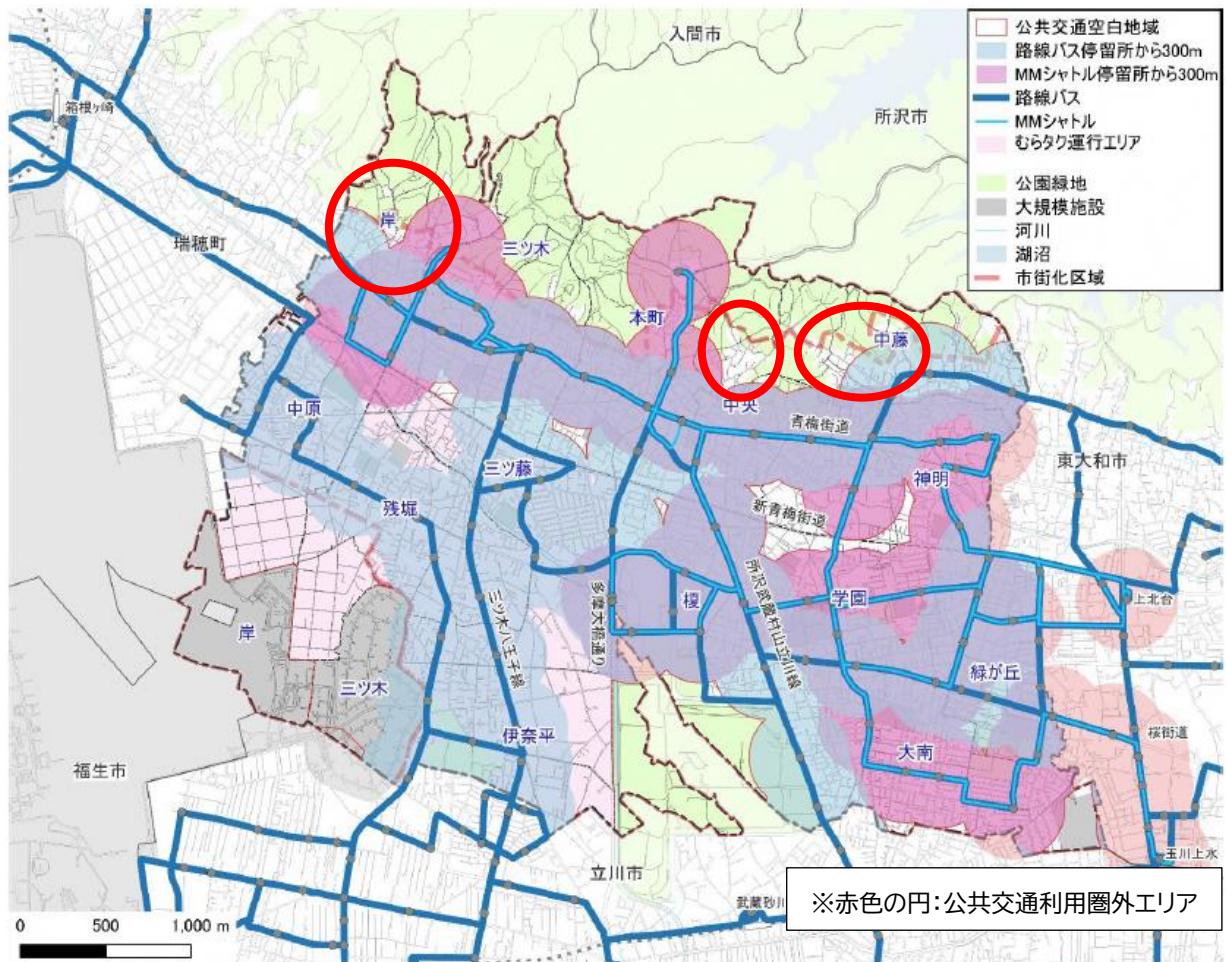


## 乗合タクシー「むらタク」の運行エリア拡大に関する実証実験について

### 1. 実証実験の背景と目的

市域において、路線バス、それを補完する MM シャトル、むらタクが公共交通として運行されているが、市域の青梅街道の北側のエリアなど、公共交通を利用しづらい(利便性が低い)地域が存在している。青梅街道では路線バス及び MM シャトルが運行されているが、バス停から距離があるなどの理由から、公共交通利用圏外となっているエリアがあり、特に、市域の北西部に位置する岸エリア(岸二丁目～五丁目)の地域については、他地域に比べても市内各所へのアクセスに課題がある。

そこで、岸エリアのアクセス性向上について検討するため、むらタクの利用登録可能エリアを岸エリアまで拡大する実証実験を行う。



出典：HP 等をもとに作成

図 公共交通徒歩利用圏(300m)と人口分布の重ね合わせ

(「武蔵村山市の現況について」令和6年度協議会資料を一部修正)

## 2. 実証実験の方法(案)

### (1) 実証実験の期間

- ・令和9年4月1日～令和10年3月31日

### (2) 実証実験のエリア

- ・岸二丁目～五丁目

※ むらタクの利用者登録可能エリアに上記エリアを追加

### (3) 実証実験の内容

- ・区間: 実証実験エリア内の乗降場所⇄市内の主要な公共公益施設等16箇所

※ 既運行エリアでは、自宅⇄市内の主要な公共公益施設等16箇所であるが、実証実験エリアは狭隘な道路が多く、安全性や定時性に課題があるため、実証実験エリア内に乗降場所を設置して実証実験を行うこととする。

- ・利用料金: 既運行エリアと同様

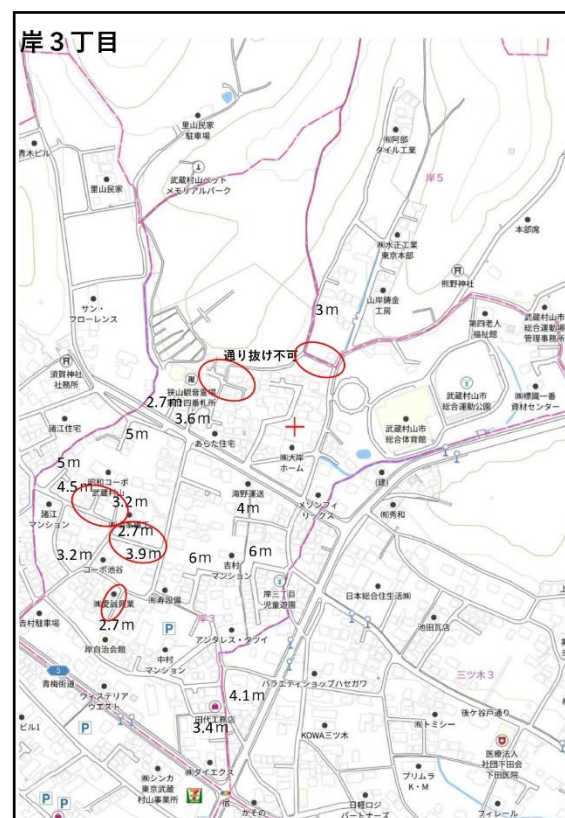
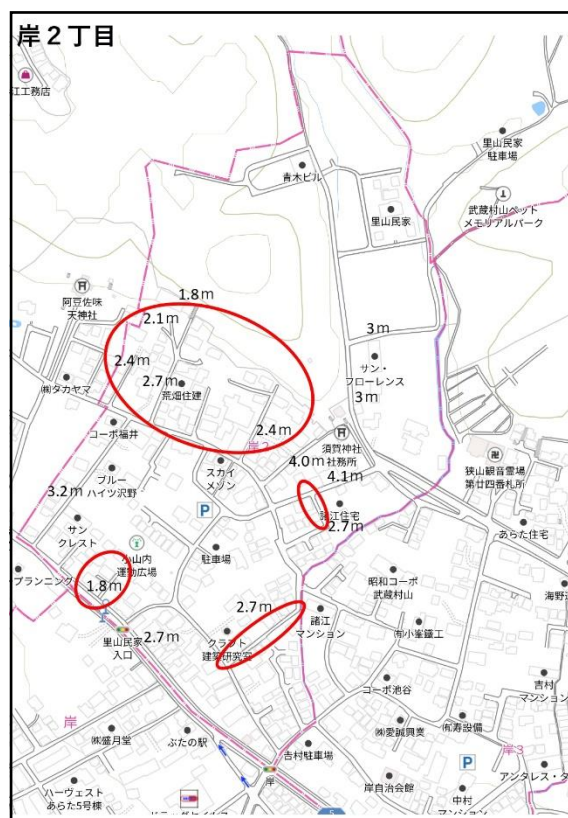
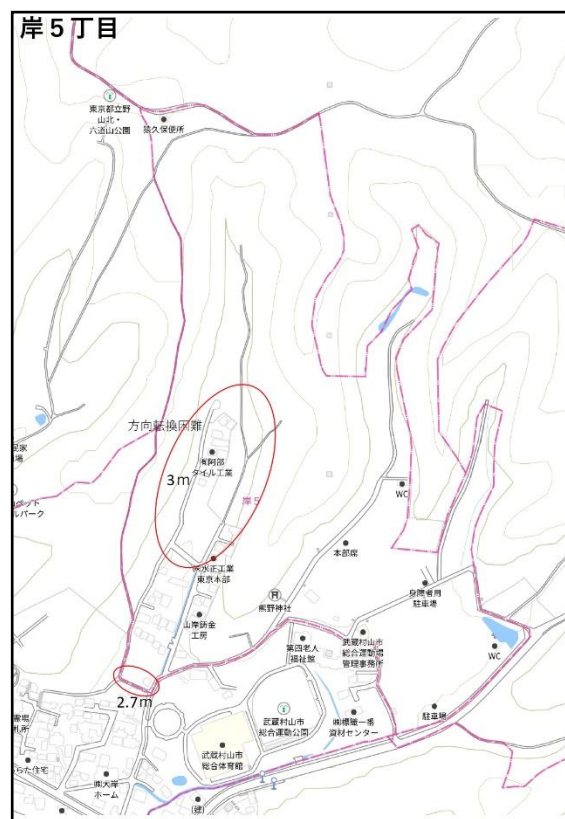
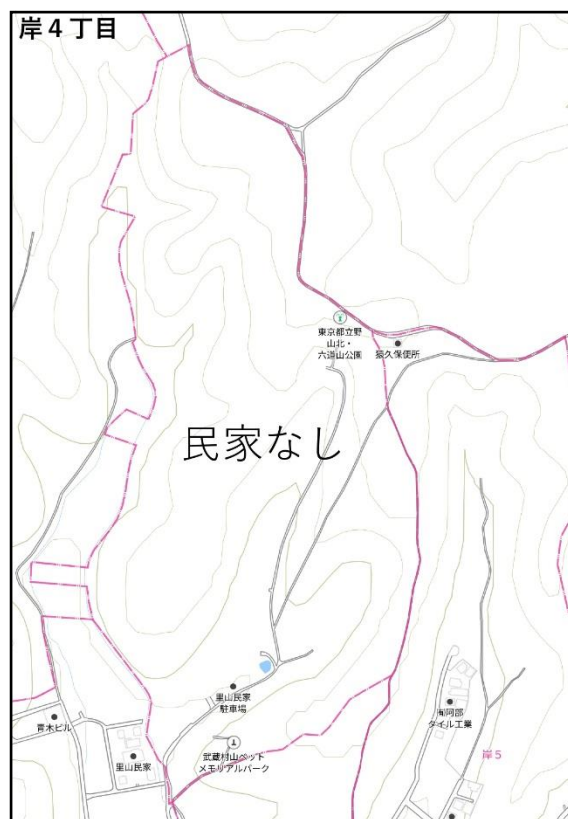
※ 実証実験エリアと既運行エリアでは、サービス水準に差はあるものの、むらタクは地域全体の交通利便性向上を目的としており、移動距離に応じた負担は求めていること、「目的地までの移動」という乗合タクシー本来のサービス価値は同様であることから、既運行エリアと同様の利用料金とする方向で、「運賃協議会」にて協議を行う。

- ・その他: 運行日、運行時間帯は既運行エリアと同様

### (4) 今後の検討事項

- ・実証実験に向けて、乗降場所の詳細や効果検証の方法等を検討

<実証実験エリアの道路幅員(幅員 4m 未満道路に赤丸)>



このエリアにお住まいのかたがむらタクの利 用 者 登 録 可 能